

madame

FIGARO

イガロジャポン

japon

2009 N°379

1/5・20

新年合併号

特別価格

620

yen

CA

cho

TI

ar

po

fun

TA

VIA

画と海外ドラマ100連発
年末年始は、
たっぷりDVD

特別付録
海外ドラマ
作品収録DVD

「アグリー・ベティ」
「ブラザーズ&シスターズ」
他



行かなくても楽しいパリ案内 パリの文化です。 アンティークとカフェは、

LIQUEURS
DE
MARQUES

おしゃれパリジェンヌの
モロッコ・タンジェ暮らし。

世界の都市から、おしゃれ実況中継

待ったなし!の
リアルな流行ベスト10

レイなひとは、もう始めてる!

身体と心に効く、マクロビごはん。

ディオールと現代アートの
斬新なる対話。

速報!春夏メイクは光がポイント

レースを飾って作られた、 代表的なドレスや下着。

Dentelle Noir

1920年代以降、機械編みのレースが主流になると、それまであまりなかったカラーのレースが流行するようになる。黒やグレーなどのダークカラーのレースはカクテルドレスなどに使われた。フューシャ・ダンテルで見つけた40年代のレースドレスは、260ユーロ



de Valenciennes

バランシエンスというフランス南東部にある町は、ネグリジェやスカートの下に着るジュボンなど、日常使いのレース下着を多く作っていた。襟元や裾にレースを施し、服の下からちらりと見せるのがおしゃれだった1910~20年頃のものが多く残る。イニシャルが入ったものも人気。

Robe d'Art Déco

第一次世界大戦が終わった1920年代、シンプルでモダンなデザインが流行ったアールデコ時代になると、ファッションもミニマムなシルエットのドレスに、装飾はレースのみ、というのがトレンドだった。胸元とスカート部分に金糸のレースが施されたドレスが美しい。



「あまりレトロすぎないよう、モダンな空間に去年改装したの」と語るように、シンプルな店内に整頓されたレースが並び、

乙女心をくすぐるセレクト。 良質なレースドレスが充実。 フューシャ・ダンテル

25年前からレース屋としてこの場所にある店を、9年前に引き継いだ現オーナーは若い女性。「手編み、機械編みにこだわらず、美しいレースが好き」と彼女が言うように、洋服からテーブルクロス、リボン類まで、状態のいい良品ばかり。

Fuchsia Dentelles map A-1

2, rue de l'Ave Maria 75004 ☎01-48-04-75-61 聖PAUL 火13時~19時(火~土) 15時~19時(日、祭) 毎月 カード: (A), (B), (C), (D), (E) www.fuchsia-paris.com



下: オーナーのエリーズさんは美しく聡明な女性。左: ドレスだけでなく、リボンも豊富。タンスの上にマネキンや花を飾ってリボンやハンカチなどをディスプレイ。



できないものもあり、そのほとんどは女性の手による仕事だが、ハンドメイド独特の不揃いさもあってたりして、それもまた愛おしく感じられる。
お手入れは「ハンカチやブラウスなど、汚れたものは必ず手洗いで。コレクターは、繊細な手編みのエシヤルブ(首かけ)や襟などは絶対に洗わない」と、レースのスペシャリスト、フランシヌさんは言うが、使ってこそレースの魅力を知る近道。クチユリエ気分、アンティークのリボンレースを袖や裾にちよっと縫い付けてみる、というのも素敵なお楽しみ方のひとつである。